

仏伝 Tathāgatajanmāvadānamālā の校定研究(第16章 —第19章)

楊, 曉華

<https://doi.org/10.15017/1522370>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（文学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏 名	楊 暁華		
論 文 名	仏伝 Tathāgatajanmāvadānamālā の校定研究 (第16章—第19章)		
論文調査委員	主 査	九州大学	教授 岡野 潔
	副 査	九州大学	准教授 片岡 啓
	副 査	九州大学	教授 久保 智之
	副 査	九州大学	准教授 南澤 良彦

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、梵文 Tathāgatajanmāvadānamālā (略号 TJAM) 第16章～19章の研究であり、第一部の内容研究と第二部の校定テキストから成る。

TJAM はネパールで成立した釈尊の伝記文献であるが、仏伝と vadānamālā という、本来異なる二つの文献ジャンルが重なりあう領域で生まれた梵文作品として位置づけられる。

本論文の第一部は6章から成るが、TJAM 第16章～19章の大部分が Lalitavistara (略号 Lal) と Mahāvastu (略号 Mvu) と Buddhacarita (略号 Bc) という三つのインドで成立した仏伝を源泉として作られていることを明らかにした。

本論文第1章では、TJAM の章立て、韻律、粹物語、作成年代、先行研究、写本や研究の意義などを記述した。本論文第2章では、TJAM 第16章～19章の仏伝記事の内容の全体を示した。

本論文第3章では、TJAM 第16章～19章にみられる仏伝 Mvu との関係に焦点をあて、特に TJAM の第16章・第19章に Mvu が源泉資料として使われていることを指摘し、Mvu の素材が TJAM の中でどのように使われているかを考察した。本論文第4章では、仏伝 Lal との関係进行调查し、TJAM 第16章・第17章・第19章で Lal が源泉資料として用いられていることを指摘し、その内容を検討した。本論文第5章では、TJAM 第17章～19章の三つの章に、Bc を源泉とする

箇所があることを明らかにした。特に第17章では章全体の3分の2が Bc の第3章と第4章からの借用文で占められていることを確認し、相違点も示した。本論文第6章では、源泉が不明である箇所を明確にして、その源泉不明の部分は作者の創作である可能性が高いことを指摘し、具体的にその内容がどういうものを示した。

本論文の第二部は、TJAM の四つの章の梵文テキストの校定として世界で唯一のものである。写本の異読も示し、必要な箇所では Bc の Johnston 版や Cowell 版の読みも付した。

本論文の研究の結果、TJAMという作品の次の様な性格が一層明らかになった。TJAM の作者はインド成立の三種の仏伝を踏まえ、インド仏教の大乗・小乗の相違や、小乗の部派間の伝承の相違にとらわれずに、それらの異なる伝承の壁を越えて、一つの総合的な釈尊の伝記を製作しようとした。その際に作者は源泉資料たる3仏伝を尊重しつつも、またインドの伝統を離れて、ネパールの土着の伝統に合った創作も行った。

このように本論文は、TJAM 第16章～19章を世界で初めて研究したものであり、今後の研究の確かな礎になるものと認められる。

よって本調査委員会は、本論文の提出者が博士（文学）の学位を授与されるに十分な能力をもつことを認め、ここに報告する。